

会員の広場



全日本大学開放推進機構への抱負

全日本大学開放推進機構 理事長 香川 正弘

このたび、平成 24 年 2 月 20 日に内閣府の認証を得て、本機構の名称は、非営利特定活動法人全日本大学開放推進機構となりました。今までの本機構は、任意団体であって法人格がありませんでした。任意団体の良さもあるのですが、公益活動を行うにはやはり制約を受けることが時々ありました。法人格を取得したことで、今まで行ってきた事業活動に加え、さらに社会のために活動の幅をより広げていくことが期待されます。

本機構は、我が国における、少子高齢社会における生きがい、国際的な経済競争における能力開発、地域社会の活性化、東京と地方の文化格差等、現代的な課題に即した大学開放を振興することを目的に、大学開放の研究者と実務家の有志が集まって平成 15 年に結成されました。その後、大学関係者以外の行政関係者や一般市民も入会し、多様な観点から地域社会の「知の拠点」としての大学開放の在り方を検討し、実践的にも経験を積んで来ました。

大学開放に関する全国組織は、それぞれの国ごとに設けられています。イギリスでは 1890 年代に、アメリカでは 1910 年代に有力な団体が形成され、幾多の変遷を経ながら今日に及び、主に大学開放にかかわる教職員によって推進され、大学開放に関する研究と実践交流の場としての役割を果たしてきます。本機構のユニークさは、大学開放の専門家だけでなく、企業や市民も共に参画していることにあり、会員が対等の立場で地域社会に於ける大学を「知の拠点」にすることを考え、実践を有効にする方策を考えるところにあります。

高等教育、生涯学習、インターネットを含むジャーナリズム、各種団体による研修組織、個々の市民によるライフワークの普及等の背景を持つ成熟した市民社会において、大学をして地域社会の「知の拠点」に転換することは、言うは易く、実現していくにはいくつもの困難が予想されます。特に、経営の観点からすると、大学開放は成り立ちにくいというのが現実でしょうか。これを克服して自立していくためには、大学本来の教育・研究に立ち返っての大学開放に努めることが重要であると考えます。そこにこそ、生涯学習社会における大学開放の価値があるものと思います。

大学開放(大学拡張)は、「すべての町に大学を」をモットーに掲げ、「知の普及」によって、全国を学問の「お花畑」にすることを目指しました。住民の通える範囲に高等教育機関が存在する我が国では、「すべての町に大学を」は実現されているといってよく、「知の普及」は、「知の探求と創造」に力点を移すべきでしょう。非営利特定活動法人として、会員の公益を振興し、そこを拠点にして広く知識社会の形成に貢献することを目指したいと思います。今後とも、多くの方々ご参加いただき、一緒に日本型大学開放を実現していきたいと、ご協力、ご支援をお願い申し上げます。

香川 正弘 (かがわ・まさひろ)

1942 年、広島県生まれ。広島大学大学院教育学研究科教育行政学専攻博士課程単位取得中途退学、
1987 年「イギリス大学拡張成立史研究」で教育学博士。上智大学総合人間科学部教授。現在、上智大学名誉教授。